

令和2年度（2020年度）採択プログラム 中間評価調査
 卓越大学院プログラム プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名		京都大学		整理番号	2003
1.	プログラム名称	社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム			
	英語名称	Distinguished Doctoral Program of Platforms			
	ホームページ (URL)	http://www.platforms.ceppings.kyoto-u.ac.jp/			
2.	全体責任者 (学長)	ふりがな 氏名 (職名)	※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるものは基幹大学）の学長名に下線を引いてください。 みなと ながひろ 湊 長博 (京都大学総長)		
3.	プログラム責任者	ふりがな 氏名 (職名)	すぎのめ みちのり 杉野目 道紀 (京都大学副学長)		
4.	プログラムコーディネーター	ふりがな 氏名 (職名)	はらだ ひろし 原田 博司 (京都大学大学院情報学研究科情報学専攻・教授)		
5.	設定する領域	最も重視する領域【必須】	③将来の産業構造の中核となり、経済発展に寄与するような新産業の創出に資する領域		
		関連する領域 (1)【任意】	②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域		
		関連する領域 (2)【任意】			
		関連する領域 (3)【任意】			
6.	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)	J		
		最も関連の深い区分 (中区分)	60	情報科学、情報工学およびその関連分野	
		最も関連の深い区分 (小区分)	60080	データベース関連	
		次に関連の深い区分 (大区分)【任意】	J		
		次に関連の深い区分 (中区分)【任意】	60	情報科学、情報工学およびその関連分野	
		次に関連の深い区分 (小区分)【任意】	60060	情報ネットワーク関連	
7.	授与する博士学位分野・名称	博士 (総合学術)、もしくは博士 (情報学)、博士 (農学) 付記する名称：社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム			
8.	学生の所属する専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	京都大学大学院 情報学研究科：情報学専攻 農学研究科：農学専攻、森林科学専攻、応用生物科学専攻、地域環境科学専攻、生物資源経済学専攻			
9.	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入		10. 本プログラムによる学位授与数 (年度当たり) の目標 ※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。		
連合大学院		共同教育課程		12	
11. 連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)					
学校法人自治医科大学、大学共同利用機関法人統計数理研究所、トヨタ自動車株式会社、日本電信電話株式会社NTTコミュニケーション科学基礎研究所、株式会社気象工学研究所、一般社団法人農業農村整備情報総合センター、大学共同利用機関法人総合地球環境学研究所、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社、国立研究開発法人理化学研究所、ヤフー株式会社Yahoo! JAPAN研究所、日本電気株式会社セキュアシステムプラットフォーム研究所、株式会社国際電気通信基礎技術研究所、西日本電信電話株式会社、株式会社KDDI総合研究所、株式会社角川アスキー総合研究所、一般財団法人Rubyアソシエーション、アンリツ株式会社、一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構、国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人水産研究・教育機構・水産大学校、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、wenvator LLC、三菱電機株式会社 情報技術総合研究所、ソニーグループ株式会社 R&Dセンター、University of Chicago, University of Illinois, Vienna University of Technology, ボツダム大学、Delft University of Technology, Technical University of Berlin, Aalborg University、華中農業大学、国立中興大学、国立台湾大学、University of Florida, Technical University of Munich, Sorbonne University, Centre national de la recherche scientifique (CNRS), Institute for Infocomm Research, Agency for Science, Technology, and Research (A*STAR)					

(【2003】機関名：京都大学 プログラム名称：社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム)

14. プログラム担当者一覧								
※「年齢」は公表しません。								
番号	氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	エフエム(割合)
1	(プログラム責任者) 杉野目 道紀	スギノメ ミチノリ		京都大学副学長	博士(工学)	有機化学	事業統括	1
2	(プログラムコーディネーター) 原田 博司	ハラダ ヒロシ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(工学)	通信工学、 通信プラットフォーム	プログラムコーディネーター、運営企画委員長	3
3	鹿島 久嗣	カシマ ヒロシ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(情報学)	機械学習	教育推進、運営企画委員	1.5
4	河原 達也	カワハラ タツヤ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(工学)	音声情報処理	教育推進、運営企画委員	1
5	黒橋 禎夫	クロハシ サダオ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(工学)	自然言語処理	教育推進	1
6	西 野 恒	ニシノ コウ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(理学)	コンピュータビジョン	教育推進	1
7	神田 崇行	カンダ タカユキ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(情報学)	知能ロボティクス	産官学連携部門長、教育推進、運営企画委員	1
8	大手 信人	オウテ ノブヒト		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(農学)	森林生態学・環境学	教育推進	1.5
9	田島 敬史	タジマ ケイシ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(理学)	情報システム	教育推進	1
10	田口 智清	タグチ サトシ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(工学)	流体工学	国際連携推進部門長、教育推進、運営企画委員	2
11	山下 信雄	ヤマシタ ノブオ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(工学)	数理最適化	教育推進	1
12	下平 英寿	シモダaira ヒデトシ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(工学)	統計学、機械学習	国際連携推進、運営企画委員	0.3
13	田中 利幸	タナカ トシユキ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(工学)	統計的学習理論、情報理論	教育推進、運営企画委員	0.3
14	湊 真一	ミナト シンイチ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(工学)	超高速アルゴリズム技術	産官学連携推進、運営企画委員	1
15	五十嵐 淳	イガラシ アツシ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(理学)	プログラミング言語の基礎理論	教育推進部門長、運営企画委員	2
16	佐藤 高史	サトウ タカシ		京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻・教授	博士(情報学)	集積回路工学、集積システム工学	国際連携推進、運営企画委員	1
17	田尾 龍太郎	タオ リュウタロウ		京都大学大学院農学研究科農学専攻・教授	博士(農学)	果樹園芸学	運営企画委員	1
18	白岩 立彦	シライワ タツヒコ		京都大学大学院農学研究科農学専攻・教授	博士(農学)	作物学	運営企画委員	1
19	小杉 賢一朗	コスキ ケンイチロウ		京都大学大学院農学研究科森林科学専攻・教授	博士(農学)	砂防学	教育推進、運営企画委員	1
20	井鷲 裕司	イサキ ユウジ		京都大学大学院農学研究科森林科学専攻・教授	博士(学術)	保全遺伝学	教育推進	1
21	仲村 匡司	ナカムラ マサシ		京都大学大学院農学研究科森林科学専攻・教授	博士(農学)	木材工学	教育推進	1
22	小野田 雄介	オノダ ユウスケ		京都大学大学院農学研究科森林科学専攻・教授	博士(生命科学)	森林生態学	教育推進	1
23	三田村 啓理	ミタムラ ヒロミチ		京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻・教授	博士(情報学)	動物行動学	運営企画委員	1
24	吉田 天士	ヨシダ タカシ		京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻・教授	博士(農学)	水圏微生物学	運営企画委員	1
25	飯田 訓久	イイダ ミチヒサ		京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻・教授	博士(農学)	農業情報工学	運営企画委員	1
26	中村 公人	ナカムラ キミヒト		京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻・教授	博士(農学)	灌漑排水学	運営企画委員	1
27	栗山 浩一	クリヤマ コウイチ		京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻・教授	博士(農学)	環境経済学	教育推進、運営企画委員	1
28	黒田 知宏	クロダ トモヒロ		京都大学大学院医学研究科医学・医科学専攻・教授、京都大学医学部附属病院医療情報企画部・部長	博士(工学) 医療情報学	医療情報学	教育推進、運営企画委員	0.5
29	濱口 航介	ハマグチ コウスケ		京都大学大学院医学研究科生体情報科学講座・准教授	博士(科学)	システム神経科学	教育推進	1

14. プログラム担当者一覧（続き）

	氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フォート(割合)
30	矢和多 智	ヤタ サトシ		京都大学大学院医学研究科生体情報科学講座・助教	博士(理学)	神経生物学神経生理学	教育推進	1
31	Veale Richard Edmund	グレイリチャード・エドモンド		京都大学大学院医学研究科・医学部神経生物学・助教、京都大学大学院医学研究科医学教育・国際化推進プログラム・助教	博士(計算機科学)	計算論的神経科学	教育推進	1
32	藤村 真太郎	フジムラ シンタロウ		京都大学大学院医学研究科医学・医科専攻耳鼻咽喉科・頭頸部外科学・特定助教	博士(医学)	音声、機械学習、聴覚情報処理	教育推進	1
33	吉田 都美	ヨシタ サトミ		京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻薬剤疫学分野・准教授	博士(医学)	疫学、公衆衛生学	教育推進	1
34	國 澤 進	クニサワ ススム		京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療経済学分野・准教授	博士(医学)	医療経済学	教育推進	1
35	福間 真悟	フクマ シンゴ		京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻・准教授	博士(医学)	臨床疫学	教育推進	1
36	池田 昭夫	イケタ アキオ		京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座・特定助教	博士(医学)	臨床神経学、臨床てんかん学、臨床脳波	教育推進	1.5
37	松橋 眞生	マツハシ マサオ		京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座・特定准教授	博士(医学)	臨床神経生理学	教育推進	0.5
38	宇佐美 清英	ウサミ キョウヘイ		京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座・特定助教	博士(医学)	臨床神経学、臨床神経生理学	教育推進	1
39	岩下 直行	イワシタ ナオキ		京都大学公共政策大学院・教授	学士(経済学)	金融政策論、金融論、情報セキュリティ、フィンテック	運営企画委員	1
40	畑山 満則	ハタヤマ ミツオリ		京都大学防災研究所巨大災害研究センター・教授	博士(工学)	防災情報学	教育推進、運営企画委員	1
41	伊藤 喜宏	イトウ ヨシヒロ		京都大学防災研究所地震予知研究センター・准教授	博士(理学)	地震学	教育推進	0.5
42	清家 弘史	セイケ ヒロフミ		京都大学産官学連携本部・特定研究員(特任准教授)	Ph. D. (Chemistry)	産官学連携推進支援	産官学連携推進	1
43	中川 裕志	ナカガワ ヒロシ		理化学研究所革新知能統合研究センター・チームリーダー	博士(工学)	人工知能倫理	産官学連携推進	0.5
44	田 島 玲	タジマ アキラ		ヤフー株式会社Yahoo! JAPAN研究所・所長	博士(理学)	データサイエンス	産官学連携推進	0.5
45	藤田 範人	フジタ ノリヒト		日本電気株式会社セキュアシステムプラットフォーム研究所・研究所長	博士(工学)	情報セキュリティ	産官学連携推進	0.5
46	塩見 昌裕	シオミ マサヒロ		株式会社国際電気通信基礎技術研究所深層インタラクション総合研究所インタラクション科学研究所・室長	博士(工学)	知能ロボティクス	産官学連携推進	0.5
47	福水 健次	フクミズ ケンジ		統計数理研究所数理・推論研究系・教授	博士(理学)	機械学習	産官学連携推進	0.2
48	吉澤 真太郎	ヨシザワ シンタロウ		トヨタ自動車株式会社未来創生センター R フロンティア部・主幹	博士(学術)	数理科学、機械知能化	産官学連携推進	0.5
49	上田 修功	ウエタ ナオリ		日本電信電話株式会社NTTコミュニケーション科学基礎研究所・上田特別研究室長 (NTTフェロー)	博士(工学)	統計的機械学習とその自然科学、社会科学への応用、社会科学	産官学連携推進	0.1
50	澤田 宏	サワタ ヒロシ		日本電信電話株式会社NTTコミュニケーション科学基礎研究所 協創情報研究部・部長/上席特別研究員	博士(情報学)	信号処理、機械学習	産官学連携推進	0.5
51	白波瀬 章	シラハセ アキラ		西日本電信電話株式会社 執行役員 技術革新部 部長	修士(工学)	ヒューム開発	産官学連携推進	0.2
52	岸 洋司	キシ ヨウジ		株式会社KDDI総合研究所・執行役員 / 無線部門長	修士(工学)	無線通信ネットワーク	産官学連携推進	0.1
53	福田 正	フクタ マサシ		株式会社角川アスキー総合研究所・代表取締役会長 兼 CEO	コンピュータ科学学士	デジタルコンテンツ流通、マーケティング	運営企画委員、産官学連携推進	0.5
54	松本 行弘	マツモト ユキヒロ		Rubyアソシエーション・理事長	学士(工学)	プログラミング言語とその応用	産官学連携推進	0.1
55	矢野 一人	ヤノ カズト		株式会社国際電気通信基礎技術研究所波動工学研究所・主幹研究員	博士(情報学)	無線通信工学	産官学連携推進	0.5
56	横山 浩之	ヨコヤマ ヒロユキ		株式会社国際電気通信基礎技術研究所適応コミュニケーション研究所・所長	博士(工学)	通信システム工学	産官学連携推進	0.1
57	野田 華子	ノダ ハナコ		アンリツ株式会社技術本部・技術本部長 理事 CTO	修士(工学)	通信工学	産官学連携推進	0.5
58	永井 良三	ナガイ リョウゾウ		自治医科大学・学長	博士(医学)	内科学、循環器学	産官学連携推進	0.1
59	満武 巨裕	ミツタケ ナオヒロ		医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構・研究部副部長/上席研究員	博士(人間・環境学)	医療情報学、医療経済学	産官学連携推進	0.1

14. プログラム担当者一覧（続き）

	氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フット (割合)
60	児島 史秀	コシマ ヒロヒデ		国立研究開発法人情報通信研究機構 オープンイノベーション推進本部ソーシャルイノベーションユニット総合テストベッド研究開発推進センター・研究開発推進センター長	博士(工学)	無線通信	産官学連携推進	0.5
61	米田 健	ヨネダ タケシ		三菱電機株式会社情報技術総合研究所 情報セキュリティ技術部・部長	博士(工学)	サイバーセキュリティ	産官学連携推進	0.1
62	澤井 亮	サライ リョウ		ソニーグループ株式会社 R&Dセンター TL22・担当部長	博士(工学)	通信工学	産官学連携推進	0.1
63	高田 望	タカタ ノボム		株式会社気象工学研究所・取締役 技術部長	博士(工学)	気象解析	産官学連携推進	0.3
64	荒井 修亮	アライ ノブアキ		国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校・理事(水産大学校代表)	博士(農学)	海洋生物環境学	産官学連携推進	0.5
65	高井 研	タカイ ケン		海洋研究開発機構超先鋭研究開発部門・部門長	博士(農学)	微生物学	産官学連携推進	1
66	白谷 栄作	シラタニ エイサク		農業・食品産業技術総合研究機構・理事(戦略・組織・予算配分・運営)	博士(農学)	水利工学	産官学連携推進	0.5
67	和田 充和	ワタ ケイカズ		(一社)農業農村整備情報総合センター・研究第1部長	学士(農学)	農業部門(農学土木)	産官学連携推進	2
68	石井 励一郎	イシイ レイイチロウ		総合地球環境学研究所研究基盤国際センター・准教授	博士(理学)	理論生態学	産官学連携推進	0.5
69	遠香 尚史	オカ タカシ		三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社政策研究事業本部 研究開発第1部・主任研究員	修士(工学)	経済分析	産官学連携推進	0.5
70	伊藤 公一郎	イトウ コウイチロウ		Associate Professor, Harris School of Public Policy at University of Chicago	Ph. D.	Environmental and Energy Economics	国際連携推進	0.5
71	Mark Allan Hasegawa-Johnson	マークアラン ハセガワジョンソン		Professor, Department of Electrical and Computer Engineering, University of Illinois	Ph. D. (Electrical Engineering and Computer Science)	Automatic Speech Processing	国際連携推進	0.1
72	Sebastian Möller	セバスティアン メラー		Professor, Institute for Software Engineering and Theoretical Computer Science, TU Berlin	Dr.-Ing	Automatic Speech Processing	国際連携推進	0.1
73	Gerhard Rigoll	ゲハルト リコル		Professor, Department of Electrical and Computer Engineering, Technical University of Munich	Dr.-Ing	Multimodal human-machine communication and pattern recognition	国際連携推進	0.1
74	Ansgar Jüngel	アンスカー ヨンゲル		Professor, Institute for Analysis and Scientific Computing, Vienna University of Technology	Ph. D. (Mathematics)	Applied Mathematics/Nonlinear partial differential equations	国際連携推進	1
75	Christophe Ambroise	クリストフ アンブローズ		Professor, Laboratoire de Mathématiques Modélisation d'Évry (CNRS); Professor, Evry University, Graduate School of Mathematics	Ph. D.	応用統計学, 機械学習, その遺伝学への応用	国際連携推進	0.1
76	Robert Hirschfeld	ロベール・ヒルシュフェルト		Professor, University of Potsdam, Hasso-Plattner-Institut	Dr.-Ing	プログラミング言語, ツール, 実行環境	国際連携推進	0.2
77	Anand R. Prasad	アナンド プラサド		Founder & CEO, wenoventor	Ph. D. (Electrical Engineering)	Cybersecurity	国際連携推進	0.1
78	Sumei Sun	スメイ スン		Head of the Communications and Networks Department, Institute for Infocomm Research (I2R)	Ph. D. (Electrical and Computer Engineering)	Wireless communications, industrial internet of things	国際連携推進	0.1
79	RangaRao Venkatesha Prasad	ランガラオ ベンカテッシュ プラサド		Associate professor, Faculty of Electrical Engineering, Mathematics & Computer Science, Delft University of Technology	Ph. D.	Wireless Communications, IoT, CPS	国際連携推進	0.3
80	QING, Ping	チン ピン		華中農業大学経済経営学院・教授(副学長)	農学博士	農業食糧経済学	国際連携推進	0.2
81	HWANG, Shaw-Yhi	ホワン ショウイー		国立中興大学農業生物資源学院・教授(副学院長)	Ph. D.	昆虫学・害虫防除学	国際連携推進	0.3
82	YANG, Chang-Hsien	ヤン チャンシヤン		国立中興大学生物工学研究所・教授(副学長)	Ph. D.	遺伝学	国際連携推進	0.3
83	LUR, Huu-Sheng	ロー フーシェン		国立台湾大学生物資源農学院・教授(学院長)	Ph. D.	作物生産技術開発学	国際連携推進	0.2
84	Schuessler, John K.	シュエスラー ジョン ケー		Professor, University of Florida, Department of Mechanical and Aerospace Engineering	Ph. D. (Mechanical Engineering)	自動化, ロボティクス	国際連携推進	0.1
85	Blanchard, Jeremiah	ブランチャード ジェレミア		Lecturer, University of Florida, Department of Computer & Information Science & Engineering	MSc (Computer Engineering)	情報工学教育	国際連携推進	0.1
86	Frédérique Charles	フレデリック シャルル		Assistant Professor, Laboratoire Jacques-Louis Lions, Sorbonne University	Ph. D. (Mathematics)	Applied Mathematics	国際連携推進	0.5

(【2003】機関名: 京都大学 プログラム名称: 社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム)

14. プログラム担当者一覧（続き）

[illegible]

(【2003】機関名：京都大学 プログラム名称：社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム)

進捗状況の概要【2ページ以内】

進捗状況の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項

- (1) 総長の強いリーダーシップの下に大学院改革を推進する全学組織である大学院教育支援機構が2021年10月に発足した。卓越大学院については同機構の大学院横断教育プログラム推進部門が統括し、京都大学で採択中の卓越大学院間で共通した教育の評価および質の保証、卓越大学院間を強固に連携する運営企画、卓越大学院プログラムが推進する大学院改革と博士学生支援を含む他の大学院改革が同機構内で連携でき横断的な大学院運営の全学規模の浸透が可能となった。研究分野、卓越大学院プログラムの垣根を越えた連携を行う企画として「京都大学卓越ワークショップ2022」が採択中の3つの卓越大学院に参加する学生や教職員を中心に実施された。
- (2) 実世界（物理空間）で情報を創造しコンピュータによる仮想空間に通信技術（CT）を取り込み、情報技術（IT）を駆使し処理することにより価値創造を行うプラットフォーム構築のために必要となる技術を学内外の専門家が解説し、講義だけでなく共通討論および各種課題によりプラットフォームをデザインする力を醸成する「プラットフォーム学展望」を新規開講した（修士課程1年）。研究科を問わず履修可能であり、令和3年度47名、令和4年度60名とプログラムの年度定員（15名）を大きく超える登録があり、プラットフォーム学の周知が広く行われた。
- (3) 農学、医学、防災の各フィールドにおける既存プラットフォームのケーススタディおよびデータ収集とデータ利活用の実習を行う「プラットフォーム学セミナー」を新規開講した（修士課程2年）。実習ではIoT用通信デバイス、環境センサー、医療機器で構成されるオリジナルの実習講義専用機器を新規開発し、この機器を各人が用いて実医療データをクラウドで収集・処理・利活用を行う。また、講義による情報提供のみならず共通討論および各種課題を通じて社会実装する上でのプラットフォームを自らデザインするプロジェクトを行った。
- (4) プログラム履修生による研究成果をもとに履修生の研究分野と同分野もしくは履修生の研究を加速する研究を行っている学外プログラム連携機関の研究者との情報交流、討議をプラットフォーム構築の観点を含め行う「プラットフォーム学特別セミナー1」を新規開講した。同セミナーでは履修生毎に情報提供、討議を行う学外研究者はオーダーメイドで決定された（博士後期課程1年）。
- (5) 国際的に活躍する人材を育成するため、英文テクニカルライティング等に関する外国人講師による指導、プログラム修了後の自身の研究成果を国際標準化、商用化を行うための国際標準化で議長職を歴任されてきた外国人講師によるコミュニティ形成能力の指導、法学研究科教員によるデジタルと法に関する講義、京都大学 URA による研究資金獲得に関するノウハウ等を修得する「プラットフォーム学特別セミナー2」を新規開講した（博士後期課程2年）。
- (6) さまざまな現場領域におけるプラットフォームの利活用状況・課題抽出・必要技術・社会実装のための必要事項、今後の展望等を外部連携機関担当者、当該業界における著名な有識者と学内のプログラム担当者が参加しパネルディスカッションを行う「プラットフォーム学連続セミナー」を2020年6月以降ほぼ毎月、合計20回開催し、2年間で延べ58名の登壇者、3100人を超える参加登録があった。セミナーは一般公開の形をとり、延べ100以上の京都大学外の学生、1400名以上の企業・公的機関の参加登録があった。セミナー終了後は履修生と登壇者の直接討議ができる時間を設け、本プログラムの外部への周知と履修生の研究促進という両方の目標を効率的に達成した。
- (7) 厳正な選抜を経て極めて優秀な履修生が集まっている。博士後期課程学生の87.5%が日本学術振興会特別研究員、文部科学省科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業、京都大学大学院教育支援機構プログラム（JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム）に採択されている。また履修生の受賞はこれまで19件に及ぶ。
- (8) 各研究科、プログラムのカリキュラムを基礎として、現場領域における実データを利用した実践と議論を通じて研究を深化させる「フィールドリサーチインターンシップ」を実施し、令和5年5月現在まですでに6名の学生が国内外で修了した。特にコロナ禍にもかかわらず5名の学生が米国、マダガスカル、オランダ、スペイン等で1カ月以上の実習を行った。
- (9) プラットフォームに関連する研究を推進する上で必要な通信デバイス、クラウド基盤、データ分析ツール等を利用できる研究支援ラボ：「Platform Initiative Lab」をNTT西日本と構築した。ラボでは履修生は最新のローカル5G、各種IoT無線機器用、NTT西日本のクラウド設備、パブリッククラウド設備の利用が可能である。

② 計画通り進んでいる事項

カリキュラム設計、運営体制構築、履修生受け入れ、人材育成プログラムの推進、大学院教育支援機構を通じた大学院教育の改革等、当初の計画通りに進んでいる。また、①で記載の項目に関しては当初の計画以上に進展している。

- (1) 大学院教育支援機構内に設置された大学院横断教育プログラム運営委員会を通じて学内の他の卓越大学院プログラム、博士教育リーディングプログラム等と履修生の状況を共有するとともに全学組織としての大学院教育改革について情報共有・意見交換を行っている。
- (2) 教授会、運営企画、教務、入進学審査、修了審査に関する各委員会を設置し、本プログラムの運営体制を確立した。また本プログラムの推進を支援する特定教員（准教授、助教）の雇用、独立の事務室を開設し、本プログラムを構成する各研究科・専攻を横断した緊密な連携を行っている。
- (3) 本プログラムの3つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション）を定め、本プログラム推進・入進学・修了、雇用に係る規定類も整備した。
- (4) 本プログラムのホームページおよびパンフレットを整備した。特にホームページでは、履修生のインタビュー記事、受賞情報、プラットフォーム学連続セミナーでのレポートを掲載し、履修を検討している学生に対してプログラムの現状を効率的に把握できるコンテンツを整備している。
- (5) 計画調書で示した開講科目：プラットフォーム学展望、プラットフォーム学セミナー、プラットフォーム学特別セミナー1、2はすべて開講した。またフィールドリサーチインターンシップも実施され、加えてプラットフォーム学連続セミナーの開催を行った。学内6部局（情報学研究科、農学研究科、医学研究科、防災研究所、公共政策大学院、法学研究科）からは上記の開講科目・セミナーにおいて講義提供、セミナー登壇を行っている。
- (6) 履修生を順調に受け入れて指導をしている。令和5年5月時点での履修生は29名で定員充足率は97%である。また留学生も3名在籍している。
- (7) プログラム履修者は、入学決定後から所属研究室の指導教員に加えて異なる分野の研究室に所属する教員を副指導教員として複数指導体制で研究を実施する。副指導教員は定期的に指導・助言・メンタリングを行う。修士2年次に行われるQE終了後に、最終的な副専攻、副指導教員を決定し博士論文研究を実施する。
- (8) 履修生が学修・研究に専念できるよう、全学年の履修生に対して、RA雇用により経済的支援を実施している。支援額は、修士課程学生が26万円/年、博士後期課程学生（他から経済的支援を受けている学生は除く）が123万円/年である。また、履修生自身の研究をプラットフォーム化するための研究に対して研究活動支援費を選抜の上行っている。支援額は最大40万円/年である。
- (9) 学生のメンタル面でのケアを行うため、主および副指導教員による研究面を中心とした指導とは別に、プログラムコーディネータによる対面を前提とする独自のメンタリングを全ての履修生に実施し、プログラムに対する負担、研究推進に関する不安に関して相談できる体制を整えている。また多様なキャリアパスも必要に応じて伝えている。
- (10) 履修生がフィールドワーク・学会等で授業・セミナー等に参加できない場合に視聴可能な講義視聴システム（講義アーカイブズ）をオリジナルで整備した。2023年5月現在、プラットフォーム学が提供した76の講義・セミナーがアーカイブされている。このシステムは受講状況の履歴データ等が収集できるため、各科目の授業デザインに反映し、教育の質の向上を目指す。
- (11) プラットフォームに関連する国際シンポジウムを開催した。このシンポジウムでは博士後期課程2年生の研究成果と基調講演を中心に構成され、学内外・国内外のプログラム担当者により研究成果に対する質疑応答、プラットフォームに関連する討議が行われた。コロナ禍であったためクローズイベントとして実施した。
- (12) 履修生の研究成果発表と企業とのマッチングを行うために、フィールドマッチングイベント「ICTイノベーション」を共同主催した（令和2、3、4年度）。産官学から361名（令和4年度）が参加し、履修生の研究成果を元に新たな研究創出のための企業マッチングが実施された。

③ 改善が必要な事項

プログラムは当初計画以上に進展しているが、コロナ禍により国外連携機関（特に大学）との“対面”による履修学生の交流、および国外からの優秀な学生を獲得するための“海外での”プラットフォーム学関連セミナーの実施ができなかったため実施を行う必要性がある。

④ プログラムとしての今後の見通し

本プログラムは、プラットフォームを構築する上で必要となる情報通信技術の基礎、現場での利活用の実際、構築方法について実習等も利用して学修でき、国際的に発信、標準化するためのノウハウ、研究資金獲得・起業のためのノウハウを負担を少なく学修でき、研究を促進する討議の場、経済的支援、海外でのインターンシップも提供され、プラットフォームを創出するプログラムとして基礎を確立しつつある。今後は、講義・セミナーで提供された情報を元にプラットフォーム学に関する情報を体系的にまとめ、学術としてのプラットフォーム学を確立する必要性がある。また、履修生の研究成果をさらに発展させる共同研究、ベンチャー企業等を積極的に創出できる本プログラムを発展的にかつ持続的に運用するための自己資金獲得を含めたエコシステムを構築することが必要である。